

箸荷だいすき

発行/むら芝居と花の里 はせがい

兵庫県多可郡加美町箸荷区 季刊(年4回)

編集/箸荷新聞編集委員会

URL <http://www.haseshow.com>

2004年12月23日発行 VOL.42

秋祭り余興大会 盛り上がる 各団体が芝居など上演

恒例の秋祭り余興大会が10月10日夜、箸荷むらづくり館で開催されました。会場には大勢の区民をはじめ見物客が訪れ、芝居や踊りを楽しみました。まず、婦人会役員の皆さんによる踊りで幕開け。ユニークな手ぬぐいの面をつけ、ももひき姿などで会場の笑いを集めていました。続いて、楽久賀喜会の寸劇「珍説・笠地蔵」は約10年前の台本のリバイバル。懐かしい芝居を見せてもらいました。消防団による寸劇「花咲爺さん」はオリジナルの超爆笑喜劇。子どもたちの人気を集めました。

楽久賀喜会の「誕生日当てゲーム」、ロマンス会の「ビンゴゲーム」で楽しんでもらったあとは、親和会の寸劇「初天神」。落語の台本をアレンジして脚本化したなかなかのもので、大道具なども準備して力の入った芝居でした。最後のトリは、むら芝居保存会による時代人情劇「涙の再会、別れ旅」。全国むら芝居サミット愛知公演でやったものと同じ芝居を上演しました。

今年も保存会や婦人会の女性たちが化粧を受け持ち、各団体が協力して手づくりの秋祭りができました。



楽久賀喜会の寸劇「珍説・笠地蔵」から
(10月10日、箸荷むらづくり館で)

次回サミットは兵庫・日高町で開催決まる 平成18年秋に予定

第4回全国むら芝居サミットは、平成17年11月に兵庫県日高町(来年は合併により豊岡市)での開催が決まっていたが、ホスト役を努める日高町・宵田地区が台風23号により壊滅的な被害を受けたため、開催を一年延期することになりました。その次は、大分県国東町・英ちゃん劇団が第5回大会の開催を検討することです。

10月末には、箸荷むら芝居保存会のメンバー3人が日高町へ水害ボランティアに行きました。

むらづくり委員会の予定

2月5日(土) 20:00

2月5日(土)20:00から箸荷むらづくり館で、むらづくり委員会の会議を開催します。景観助成事業、来年度の事業計画などを相談します。委員の皆さんはご出席をよろしくお願いたします。

むら芝居の紹介DVDが完成 ホームページで動画配信スタート

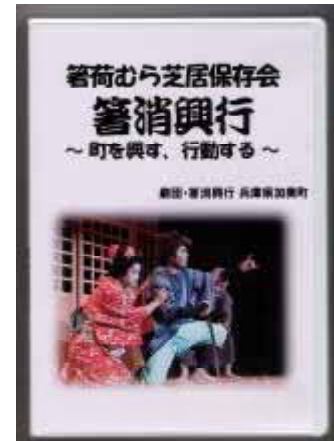
劇団箬消興行・箬荷むら芝居保存会の取り組みがインターネットのホームページで、動画でご覧になれます。平成16年7月31日に開催の全国むら芝居サミットの模様が収録されています。日本国内はもとより世界各地で箬荷地区のむら芝居をパソコンで見ただくことが可能となりました。ぜひお楽しみください。

作成：NPO ネットジャーナリスト協会

著作権：財団法人 地域活性化センター

出演：劇団 箬消興行、箬荷むら芝居保存会

時間：14分45秒



完成したDVD

ふれあいまつりの料理コンテスト 箬荷紅茶の会に優秀賞

11月14日に運動公園野球場で開催された加美町ふれあいまつりの第10回料理コンテストに箬荷紅茶の会2チームが参加。出場14チームのなかから、見事2位にあたる優秀賞（賞金3万円）を手にしました。今年のテーマは『秋の味覚デザート』。箬荷紅茶と有精卵ほか加美町特産品を使った料理で、自慢の腕を競いました。

優秀賞に輝いた紅茶の会Bチームのメンバーは、今中ツヤ子さん、今中清美さん、今中英津子さんの3人。「紅茶大福」「じゃがいものモチモチ饅頭紅茶入り」を出品しました。審査員の村上和子さん（ジャーナリスト）と丸山千恵子さん（フードコーディネーター）は絶賛していました。おめでとうございます。



審査員を囲んで、紅茶の会A・B両チーム

で記念撮影

NHK教育テレビ「土曜フォーラム」で全国放映 箬荷地区の取り組みが紹介される

9月18日に東京ビッグサイト国際会議場で開催された、おかねのシンポジウム2004「地元発信。元気な未来はみんなで作る」。フォーラムの様子が11月13日にNHK教育テレビで全国放映されました。地域活性化、金融教育などについての活動事例を映像で紹介しながら、さまざまな分野で活躍する出演者が「学ぶ」「元気」「地域」をキーワードに、ディスカッションしました。ここでは、箬荷地区の紹介された部分をピックアップして紹介します。非常に高い評価をいただいています。

出演：福井俊彦氏（日銀総裁）、河合隼雄氏（文化庁長官）、大平光代氏（大阪市助役）、堀田力氏（弁護士/さわやか福祉財団理事長） 司会：藤田太寅氏（関西学院大学教授）
（中略）

司会: みんなで支え合う、互いに助け合うというお話に至りましたけれども、それに関連して、地域みんなが主役になって地元で生き生きた力を取り戻している例が兵庫県にあります。映像で取材してありますのでご覧ください。

ビデオ(約3分)ナレーション

むら芝居に懸ける情熱が、地域経済の火付け役になろうとしています。全国のファンがバスを仕立てて愛知県の西春町に集まりました。全国の劇団が自慢の芝居を持ち寄った全国むら芝居サミットの開幕です。今回で3回目となるサミットには、全国から6つの劇団が参加しました。提唱したのは、兵庫県加美町箸荷地区の人たちです。箸荷地区の出し物は、お涙頂戴の人情時代劇です。

兵庫県加美町箸荷地区は、全戸数58戸、およそ250人の集落です。取り立てて産業のないこの地域では、むら芝居を地域活性化の柱にと期待が集まっています。劇団の中心となっているのは、21人の消防団員です。消滅していた昔ながらのむら芝居をもう1回見たいという声が地区のなかから上がり、消防団員が中心となっておよそ15年ぶりにむら芝居を復活させました。

消防団員の昼間の顔はさまざまです。仕事と消防団とむら芝居。1人3役の奮闘ぶりです。そんな消防団員の頑張りに地元の人が応え、むら芝居保存会を結成。公民館のなかに舞台までつくってしまいました。

むら芝居に取り組む人たちの熱気は、数々の村の特産品をつくり出しています。平成15年度の地域づくり総務大臣表彰の活力あるまちづくり部門で受賞。ここ加美町では、火消しの消防団が、地域の火おこし役を担っています。

劇団 箸消興行コメント

「地域全体が、それで、みんなが主役のむらづくりっていうんですかね、そういう方法ですね。うちの場合は。」

「みんなに出会うのが好き、集まるのが好き、消防が好き、この地域が好き、お酒が好き、芝居が好き、ただそれだけですかねえ」(ビデオ終わり)

司会: 河合さん、このむら芝居。文化とってよらしいんですかね。

河合: うん、正に文化ですね、これが文化です。芝居はもちろんありますけれども、芝居だけでなく生きること全体が関わってますよね。そして、特産品の「お涙頂戴」までつくっている。もうこれで完璧じゃないでしょうか。

司会: 河合さんが文化力(りょく)とか文化力(りき)と呼ばれるようになっていますが、もう少し詳しくお願いします。

河合: いわゆる芸術ですね、これも当然すごいことなんですけれども、それだけでなく「お酒飲むの好き」というのもありましたけど、お酒飲むのもそうだし、それから仕事だってそうですね。仕事をしながら火消しをやってるんだけど、元気の火付もやっている、そういう生きていること全体が文化ですよ。そういうふうを考えるべきだと思います。

司会: そこに力が湧いてくる？

河合: はい、全部に力が出てきて、そうするとあれもやる、これもやる。たくさんやってもどんどん力が出るんです。力っていうのはね、出し惜しみすると、かえって疲れることが多いんですよ。そういう人いるでしょ。力があるのに、さぼろう、さぼろうという人が。さぼるのに疲れ果てて、怖い顔してる人おられるでしょ。(力は)使ったほうが元気出んです。

司会: 福井さん、今の映像ご覧になって、いかがですか。

福井: さきほどのお芝居なんかを見ていてもですね、いきなり値段つけられないですよ。だから経済的価値っていう観点よりは、しかし地域の人たちはいい、やっている人たちはもちろん、地域の人みんなが拍手しているから価値があるんですね。こういう経済的価値っていうのは、不特定多数の人たちの評価が一致する、地域の中か外かを問わず評価が一致するっていうのが経済的価値であって、だからお金が当てはめられる、そういうことです。値段のつけようがない、しかしやっている本人たちとそれを見ている周囲の人たちは「いいね」という、明らかに文化的価値ですよ。

これがずーっと広がりを持ち芝居が全国版になり、海外に行っても通用するってことになれば、文化的価値と経済的価値がだんだん重ね合わせになってくるという、こういうことだと思います。世の中の価値騒動の出発点というのは、いきなり金銭的価値とか経済的価値じゃないんですよ。大量生産も、ある段階までいってしまうと、何でも経済的価値で割り切れると思っていました。でも本当は違うんです。出発点は常に文化的価値から始まる。田舎だけかかっていったら、そうじゃない。都会のなかも、田舎のなかもそういうことから始まる。いま始まりだから、高度成長時代の経済的パワーの余韻が残っている都会と比べると田舎が遅れているねっていうことになってますけれども、本当の力はまあまんべんなく出始めていると思います。(中略)

景観形成支援事業の来年度要望

その都度、ご相談を

箸荷地区が平成12年12月に「景観むらづくり協定」を結んだことにより、平成13年度から兵庫県の「景観形成支援事業」の対象地区となりました。これは、箸荷の基準に基づいて建物を建築したり、屋根の葺き替え、塀など外観部分の改修をした場合に県からその費用に対して補助金が出るものです。

平成17年度（平成17年4月～平成18年3月までに完成分）に事業を予定されている方は、事業に着工する前に区長または事務局へご連絡をお願いします。計画されている事業の概要（計画図面があれば、お持ちください）、予定事業費、着工・完成予定時期などをお知らせください。むらづくり委員会で事業の内容をご説明いただき、その後、役場へ景観形成支援事業（補助金）の申請をしていただくこととなります。

景観形成支援事業

補助率は1/4で、補助対象金額は建物等の外観部分の工事費です。

補助限度額は75万円となっていますが、県内の要望数、事業費などにより、満額出ないことがあります。

あくまでも「美しい景観を守る」ことが目的であり、補助金をもらうためにやるものではありません。

補助金が毎年限られており、県内で要望がたくさんあった場合などは、補助金が出ないことがあります。また、兵庫県の審査により補助金が決定されるので、補助金が出ない場合はご了承願います。

建物等の条件

箸荷の景観形成基準に合った構造、色彩であること。

箸荷むらづくり委員会に事前に相談し、建物等の概要を説明すること。

申請に必要な書類（申請は事業着手の直前にしていただきます）

（申請時）現況写真、業者の見積書、配置図、平面図、立面図など

（完成時）完成写真、業者の請求書、領収書など

問い合わせ 箸荷むらづくり委員会 安藤茂委員長または事務局の今中孝介へ

はせがいの動き

10 / 3 道ぶしん。お疲れさまでした。

10 / 10 地区の秋祭り余興大会。婦人会、各団体の皆さん、楽しい出し物をありがとうございました。

10 / 11 御頭の神事。今中規夫さん・今中繁さんから、今中健夫さん・今中順一さんに引き継ぎ。

11 / 14 権現さんの御頭。今中康隆さん・今中浩善さんから、今中利充さん・今中雄一郎さんに引き継ぎ。

12 / 19 花壇に葉ボタンの植え替え。早朝からご苦労さまでした。

の・ん・べ・え・編・集・室

早いもので、また正月を迎えることになりました。今年一年いろいろお世話になりました。来年も皆さんにとって良い年でありますように・・・。

箸荷のホームページ、毎日更新中です。またのぞいてみてください。

URL <http://www.haseshow.com>